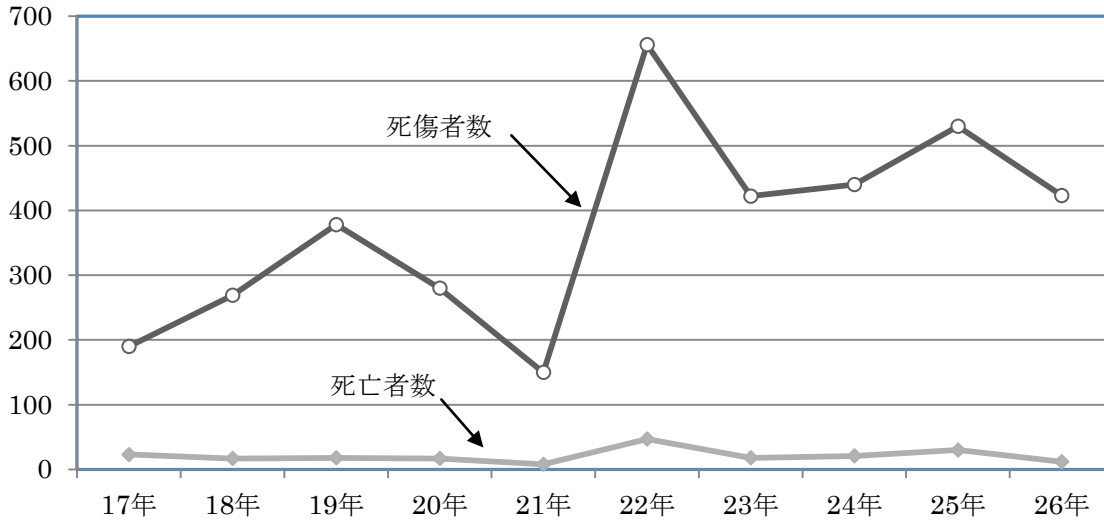


職場における熱中症について

1 熱中症による死傷者数の推移

熱中症は、平成 22 年が最多であったが、その後も高止まりの状態にある。

熱中症による死傷者数の推移（全業種）



※ 死亡者数は、死傷者数の内数。

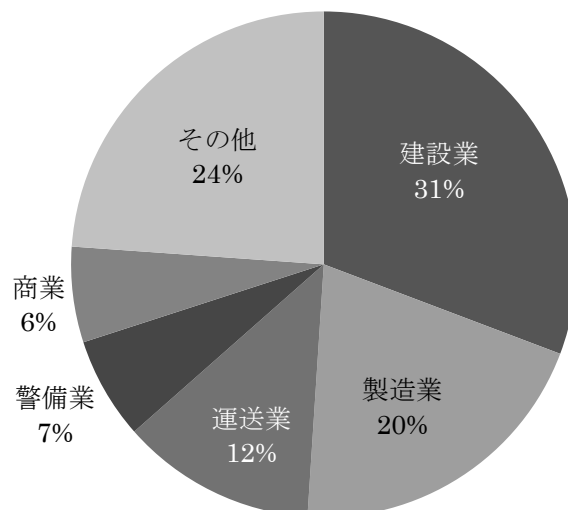
2 業種別熱中症の発生状況

運送業の熱中症は、死亡災害は比較的少ないものの、死傷災害は第 3 位で 12%を占めている。

	H22	H23	H24	H25	H26	合計
全産業	656 (47)	422 (18)	440 (21)	530 (30)	423 (12)	2,471 (128)
建設業	183 (17)	139 (7)	143 (11)	151 (9)	144 (6)	760 (50)
製造業	164 (9)	70 (0)	87 (4)	96 (7)	84 (1)	501 (21)
運送業	85 (2)	56 (0)	43 (0)	68 (1)	56 (2)	308 (5)

※ () 内は死亡者数で内数。

業種別死傷者数の割合



3 熱中症の事例（陸運業）

○ 死亡災害事例（H26年）貨物取扱業

月	年齢	事案の概要
8	40歳代	被災者は、事業場内の清掃を行っていたが、午後に、被災者の姿を見た者がいなかったため、同僚が探索したところ、便所の壁に倒れかかった状態で見つかり、病院に搬送されたが、死亡した。

○ 死亡以外の事例（H23年）

月	発生時間	年齢	災害状況
7	10～11	40	発電所構内で、機械を積込み完了後、固縛の為、レバブロック2丁を持ってトラック荷台を前から後部へ移動中、熱中症の為、荷台から転落し、頭部腰部を打撲し負傷した。
7	18～19	37	一般家庭の引越作業中、熱中症とみられる症状を発生した。
7	14～15	48	波消ブロック用型枠整備ヤードにて型枠積込中、熱中症によりトラック荷台より転落し、頸椎を捻挫した。
7	9～10	35	前日より体調不良で、翌日もそのまま出勤し作業していたが、顔色が悪い為早退をさせようとしたところ、構内で体調が悪化してしまい動けなくなってしまった。その後救急車で病院に搬送され、熱中症と診断され、そのまま入院となった。
8	15～16	49	引っ越し荷物を引き渡し作業中、手足がつりはじめ気分が悪くなり、15分程日陰で休んでいたが、症状が治らず救急車で病院へ搬送。熱中症と診断された。
8	5～6	45	被災者（以下「甲」という）は派遣先において、荷物の運搬作業に従事していた。甲は作業を行っている際に気分が悪くなったため、一旦作業を中断し水分を取りながら安静にしていたが、体調は良くなり、嘔吐やこむら返りを起こしたため、救急車でA病院へ搬送され療養を指示された。事故当日は作業場の気温が高く、熱中症を起こしたことが原因。
8	14～15	27	輸送を終え、会社に帰社する為、トラックを運転中、急に体調（めまい、手足の痺れ、吐き気等）が悪化し、休憩を取ったが、体調の回復が見込めず、救急車にて病院に搬送され、熱中症と診断された。

※厚生労働省 職場のあんぜんサイト「労働災害データベース」より。

4 平成27年の暑さ予想

気象庁の暖候期予報によれば、平成27年の暖候期（6～8月）は、東日本では気温が平年並みか平年より高くなることが予想されていることから、熱中症による労働災害が多く発生することが懸念されます。

5 熱中症予防対策

「職場における熱中症を予防しましょう！」（陸災防リーフレット）及び「職場の熱中症対策は万全ですか？」（厚生労働省リーフレット）を活用し、熱中症対策を進めましょう。

陸災防リーフレット http://www.rikusai.or.jp/public/leaflet/nettyuusyoubou_H27.pdf

厚生労働省リーフレット <http://www.rikusai.or.jp/downloads/krs-nettyusho.pdf>